

今春、ニューヨークで開かれた復興支援コンサート。被災地の若者たちがマーラー「復活」を歌いあげた(写真提供 GION)



# 被災地の若者とNYで「レクイエム」合唱へ

東日本大震災の被災地の若者たちと米国の合唱団の歌声が今春、ニューヨークに響いた。マーラーの交響曲第2番「復活」のコンサート。プロデュースをしたニューヨーク在住の指揮者、山田あつしさん(48)は来春、2回目のコンサートを計画し、被災地の子どもたちによる合唱団編成の準備を進めている。「世界共通の言語の音楽を通じ、継続的サポートを呼びかける」と話している。(松原英夫)

「復活」の最終楽章…。ニューヨーク・シティ・オペラ(NYCO)の有志たちによるオーケストラの、叫ぶような演奏で始まる。コーラスは、福島県南相馬市の小中学生・高校生ら女声

## 山田あつしさん2回目の復興公演企画



指揮者の山田あつしさん(渡守麻衣撮影)

のMJCアンサンブルと、宮城、岩手の大学合唱団のメンバー。米国からは女性のソリストと大学合唱団が加わり、総勢150人の混声合唱団が歌い上げた。「被災地の若者が『復活』を歌う姿、オーケストラの質、会場…。すべて最高の舞台。音楽の力を再認識しました」。山田さんは、こう振り返った。

大震災の時、ニューヨークは未明。外出先にいた。「アメリカの友人たちから『日本が大変だぞ』という連絡がありました。言葉も出なかった。災害の直後は、日本国内でも国際レベルでも助け合うだろうと思いましたが、いかに継続して心を支えていくか。それが音楽をやっている私のテーマだと…」

東北は合唱が盛んで、コンクールで入賞するところも多い。昨年夏に、東北を訪問。活動ができなくなった合唱団も多かった。ニューヨークに合唱団を招きコンサートをやるうと決意。プロジェクト名は「ハンド・イン・ハンド(手を取り合って)」とした。

山田さんは早稲田大学時代、グリーククラブで活躍。指揮の経験も積んだ。平成7年1月17日の阪神大震災当時は、保険会社の営業マンのかわらアマチュア合唱団を主宰。チャリティーコンサートをしりばで企画。その後「好きな音楽を続けたい」と渡米し、NYCOに日本人として初めて採用された。1999(平成11)年にオペラ指揮者としてデビュー。2001年9月11日の米中核同時テロの時も復興支援コンサートを企画している。

「次世代を担う若者たちが、音楽を通じて友情の輪を世界に広げ、助け合えるようになってほしい」と山田さん。コンサートは来春3月、リンカーン・センターで行い、ベルディ「レクイエム」などを予定している。